

入賞

双葉郡からワーケーションを

福島県立ふたば未来学園中学校1年 イトウ伊藤 モトミ素弓

福島はあの日から十年の歴史を刻んできた。もちろん、あの時幼かった私たちも、十年分の成長をしている。

私は、小さいころから頻繁に祖父母の家に行っていた。その時、車に乗って双葉郡を通っていた私は、驚きを隠すことができなかった。なぜなら、草は自分の背の何倍も伸び、明かりがついていないお店や、窓が割れて斜めに崩れているお店を見たからだ。しかも、そのようなお店の前にはゲートがかかっていた。

しかし最近、そのような光景は少しずつ変わってきている。

私は、中学生になってから総合的な学習の時間の授業で双葉郡の川内村という場所について探究している。川内村には今まで一度も行ったことがなく、山に囲まれた村なのかなとしか思っていなかった。でも実際に行ってみると、村の人たちはすごく優しくとても素晴らしい村だということが分かった。自然がひろがっていたり、さまざまな施設があったりと、充実した村であることが分かった。震災による影響があったとは思えないほど、素敵な村だと感じた。

ところで最近、新型コロナウイルスの影響で『テレワーク』をしている人が増えている。家の中でずっとお仕事をされていて、あまり外に出られない人たちに川内村のような、自然豊かな地域で、いわゆる『ワーケーション』をする人が増えるといいと思う。もちろん、川内村にはワーケーションに必要な要素が十分そろっていると考えている。私がそう考えた理由は、充実した施設や観光名所があるからだ。

ワーケーションの中の、バケーションという視点で見て、一番素晴らしいと思っている観光名所がある。そこは、川内村ならではの【天山文庫】だ。天山文庫とは、草野心平さんの本がたくさんある素敵な場所だ。天山文庫では、夏にお祭りがおこなわれていたり、草野心平さんの本を読むことができたりと、季節によって同じところでも違

いを感じることができる良い観光場所だと思う。

ワークという視点で見ると、川内村のような自然に囲まれた場所でのびのびと仕事ができるうえ、観光もできる場所はとても魅力的なのだろうと思う。私も、いつも車通りが多いところで生活しているので、川内村に试试看、その静かで自然の音が聞こえるところも魅力の一つだと感じられた。

このように、福島は自然豊かでいろいろな観光名所もある、ワーケーションをするにはピッタリな場所であると思う。この作文では、川内村を例に挙げたが、ワーケーションを行うのなら、ぜひ双葉郡で行ってほしいと思っている。私は、今までよりももっとたくさんの人に双葉郡の良さを知ってもらいたい。これからは、福島が新しいワーケーションの聖地として活躍して欲しいと思う。